

平成 20 年度 東京都小学校体育研究会 授業研究会

体育的活動

〈実証活動〉

業間運動

『みんなで盛り上がる長なわキャンペーン』

平成 20 年 10 月 27 日 (月)

練馬区立開進第三小学校

小体研 研究主題

分かってできる かかわり合ってつなぐ体育学習

体育的活動部会 研究主題

仲間とのかかわりを楽しみ、日常的に運動に親しむ
子どもを育てる体育的活動

〈 目 次 〉

ページ

はじめに～もっと知ってほしい! 「体育的活動」 1

I 研究の構想 6

1 「分かること・できること・かかわり合うこと・つなぐこと」

について ... 7

2 部会の研究主題について 8

3 体育的活動における「授業モデル」の考え方 9

4 研究の仮説と視点 11

5 研究の内容 11

I I 体育的活動の実践モデル

1 事例研究について 15

2 体育的活動の実践モデル 19

III 実践事例等

1 平成20年度の実践 練馬区立開進第三小学校 21

2 資料 28

— はじめに —
もっと知ってほしい！「**体育的活動**」

体育的活動とは…

- ☆旧学習指導要領第1章総則に記されていた「体育的活動」という言葉が部会の名称の由来です。現学習指導要領では「体育的活動」から「**体育・健康に関する活動**」となり、より幅広く研究を行っていく道が開かれました。
- ☆広い意味では、体育科の授業時間も含めた「**学校における体育・健康に関する指導全体**」を指すと考えます。
- ☆小体研における研究の範囲としては、「**体育科の時間以外の、体力の向上及び心身の健康の保持増進等に関する指導**」と考えています。
- ☆最大の目標は「**日常的に運動に親しむ児童の育成（運動の日常化）**」です。

新小学校学習指導要領

第1章 総則 第1の3

学校における体育・健康に関する指導は、児童の発達の段階を考慮して学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、学校における食育の推進並びに体力の向上に関する指導、安全に関する指導及び心身の健康の保持増進に関する指導については、体育科の時間はもとより、家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めることとする。また、それらの指導を通して、家庭や地域社会との連携を図りながら、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促し、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮しなければならない。

※下線は体育的活動部会による

総則3を明確にするキーワード

- ① **体育・健康に関する指導**
- ② **学校の教育活動全体を通じて**
- ③ **日常生活における適切な体育・健康に関する活動の実践**

① 体育・健康に関する指導

新小学校学習指導要領解説 総則編 第3章第1節の3 より

体育・健康に関する指導

- 健康・安全で活力ある生活を営むために必要な資質や能力を育て、心身の調和的な発達を図ることをねらいとする。
- 生涯にわたって運動やスポーツを実践していくことと体力の向上を重視する。
 - ・児童が自ら進んで運動に親しむ資質や能力を身に付け、心身を鍛える。
 - ・体育科において基礎的な身体能力の育成を図るとともにクラブ活動や集会など、学校教育活動全体として取り組むことが求められる。
- 体づくり運動やスポーツ活動はもとより、保健指導、安全指導、給食指導などの健康にかかわる指導が重視される。

私たちの考え

新学習指導要領では、体育・健康・安全に関する指導についてより具体的に示させるようになり、児童の発達の段階を考慮した指導が強調されています。保健、安全、給食等に関する指導も含めて、学校の教育活動全体を通じて幅広く「体育的活動」を展開する必要があると考えます。

② 学校の教育活動全体を通じて

体力の向上及び心身の健康の保持増進に関する指導

- 体育科の時間
- その他の教科、道徳、総合的な学習の時間
- 特別活動……・学校行事における健康安全・体育的行事
 - ・児童会活動、クラブ活動等における諸活動
 - ・学級活動における健康や安全に関する指導

私たちの考え

体育的活動部会は、東京都小学校体育研究会の10番目の部会として、体育科の授業を研究の対象とする他の9つの領域部会にはない研究の場を与えられています。運動の日常化を実現する活動の場として、業前や業間の集会や朝会等の時間、休み時間や放課後の時間だけでなく、「総合的な学習の時間」においても、まとまった学習時間を使って体育・健康に関する活動を展開することができるのではないかと考えています。

③ 日常生活における適切な体育・健康に関する活動の実践

新小学校学習指導要領解説 体育編 第4章 指導計画の作成等3 よ

体力の向上や心身の健康の保持増進に関する指導を通して、学校生活はもちろんのこと、家庭や地域社会における日常生活においても、自ら進んで運動を適切に実践する習慣を形成し、生涯を通じて運動に親しむための基礎を培うとともに、児童が積極的に心身の健康の増進を図っていく資質や能力を身に付け、生涯を通じて健康で安全で活力ある生活を送るための基礎が培われるよう配慮することが大切である。

* * *

各学校において、こうした指導を効果的に進めるためには、地域や学校の実態及び新体力テストなどを用いて児童の体力や健康状態等を的確に把握し、それにふさわしい学校の全体計画を作成し、計画的、継続的に指導する必要がある。

私たちの考え

体育・健康に関する指導を充実させるためには、体育・健康に関する「全体計画」を作成し、学校の教育活動の中に明確に位置付けていく必要があります。その際には、学校内だけでなく、学校外の日常生活の中での運動実践が高まることも視野に入れる必要があると考えます。

④ そして、これからの体育的活動は…

「子どもの体力向上のための総合的な方策について」より

(1) 学校の取組の充実

学校では、児童生徒に積極的に体を動かす意識を持たせるとともに、体を動かす機会を定期的に提供し、生涯にわたってスポーツに親しむ契機となるよう、体育・保健体育の授業、特別活動、総合的な学習の時間、運動部活動など学校教育全体で体力の向上に取り組むことが期待される。

また、できるだけ児童生徒が体を動かす時間を多く確保できるよう、始業前や休み時間を活用して全校で体を動かす時間を設定するなどの工夫が求められる。その際、児童生徒がより運動することを楽しみ、体力の向上に積極的に取り組むことができるようにすることが重要である。

… (後略) …

(平成 14 年 9 月 30 日 中央教育審議会答申)

☆体育的活動部会の研究実践の方向性が、改めて確認されました。

研究の経緯

昭和40年代「総則体育」時代

- 直接的に体力向上をめざす体育的活動
 - ・業前体育、業間体育の実践
 - ・体育朝会の実践

健康の増進と体力の向上は、教科としての体育だけでは不十分だという考えが背景にある。

昭和50～60年代「教科外体育」時代

※昭和57年「教科外体育」に改名

- 楽しく運動する体育的活動
 - ・運動の開発、紹介
 - ・運動カードの作成
 - ・日常的な遊びの研究

体力づくりだけでなく、子どもの意欲を引き出す指導を進める必要があるという考えが背景にある。

平成時代「体育的活動」誕生

※平成2年「体育的活動」に改名

- 自ら運動する楽しさを味わう体育的活動
 - ・「リズムダンス」運動の開発
 - ・運動種目を選択する体育朝会
 - ・運動の日常化
- 運動の方法や楽しみ方を選択・決定する体育的活動
 - ・長短なわとび運動の楽しみ方の追求
 - ・達成的な楽しみ方、競争的な楽しみ方、動きを開発する楽しみ方などを経験できる、多様な場の設定
 - ・多種多様なカードの作成他、資料・情報の提示の仕方の工夫
- 学校の実態に応じた体育的活動の実践
 - ・体育に関する指導の全体計画の作成
 - ・学校の特色を生かし、学校の実態に応じた体育朝会、体育的活動の設定と位置付け

なわとび、持久走に並ぶ第3の日常的な運動を開発して広めたいとの考えが背景にある。

「やらされる体育」からの脱却を図るために、子どもが自らの思いや願いを生かし、種目や方法、楽しみ方などを自分で選択・決定して運動に取り組む体育朝会の在り方を探る。

地域との連携や異学年との交流など、各学校の特色を生かす体育的活動の在り方を探る。

平成10年「現学習指導要領」告示

※平成14年完全実施

○「生きる力」を育てる

「体育・健康に関する活動」

- ・友達とのかかわりを豊かにすることにより、運動の日常化を図る。
- ・学校の教育活動全体を通して、体育・健康に関する指導の充実を図る。
- ・「総合的な学習の時間」で体育・健康への関心を高め、運動の日常化を図る。

学校における教育活動全体の中で、体育・健康に関する指導の可能性を模索する。

「総合的な学習の時間」
「業間運動」
における
《実践事例》

学力低下・体力低下 の社会問題化

○文部科学省

確かな学力の向上のための2002アピール
「学びのすすめ」
(平成14年1月)

○中央教育審議会答申

「子どもの体力向上のための総合的な方策について」
(平成14年9月)

14年度 5年「心も体もバリアフリー」

- 障害者スポーツを体験し、障害のある人と一緒にできる「バリアフリースポーツ」を考え、発表体験会を実施する。

15年度 6年「スポーツでみんな元気」

- 地域で日常的に運動を楽しんでいる様々な年代の方々との交流をきっかけにして、「みんなが心も体も元気になれるような運動」を考え、「おすすめスポーツ」として発表体験会を実施する。

16年度 6年「元気アップ!プロジェクト」

- 「新体力テスト」の結果と文科省配布の「元気アップハンドブック」から体力や運動の大切さを考え、「元気アップスポーツ体験会」の企画・運営と「マイ元気アッププラン」の実践を行う。

17年度 6年「レッツエンジョイ組体操!」

- 「組体操」の意義や学習単位としての位置付けを明確にし、主体的な学習活動を展開させることにより、運動や体力についての理解を深める。

18年度 業間運動「マンデースポーツ」

- 週の始まりの休み時間に、異学年とのかかわりを重視して、全校で運動遊びに取り組む。

19年度 業間運動「マンデースポーツ」

- 一人一人が自分の力を発揮できるように競争や達成などを活動の場に取り入れ、運動遊びに取り組む。

平成20年「新学習指導要領」告示

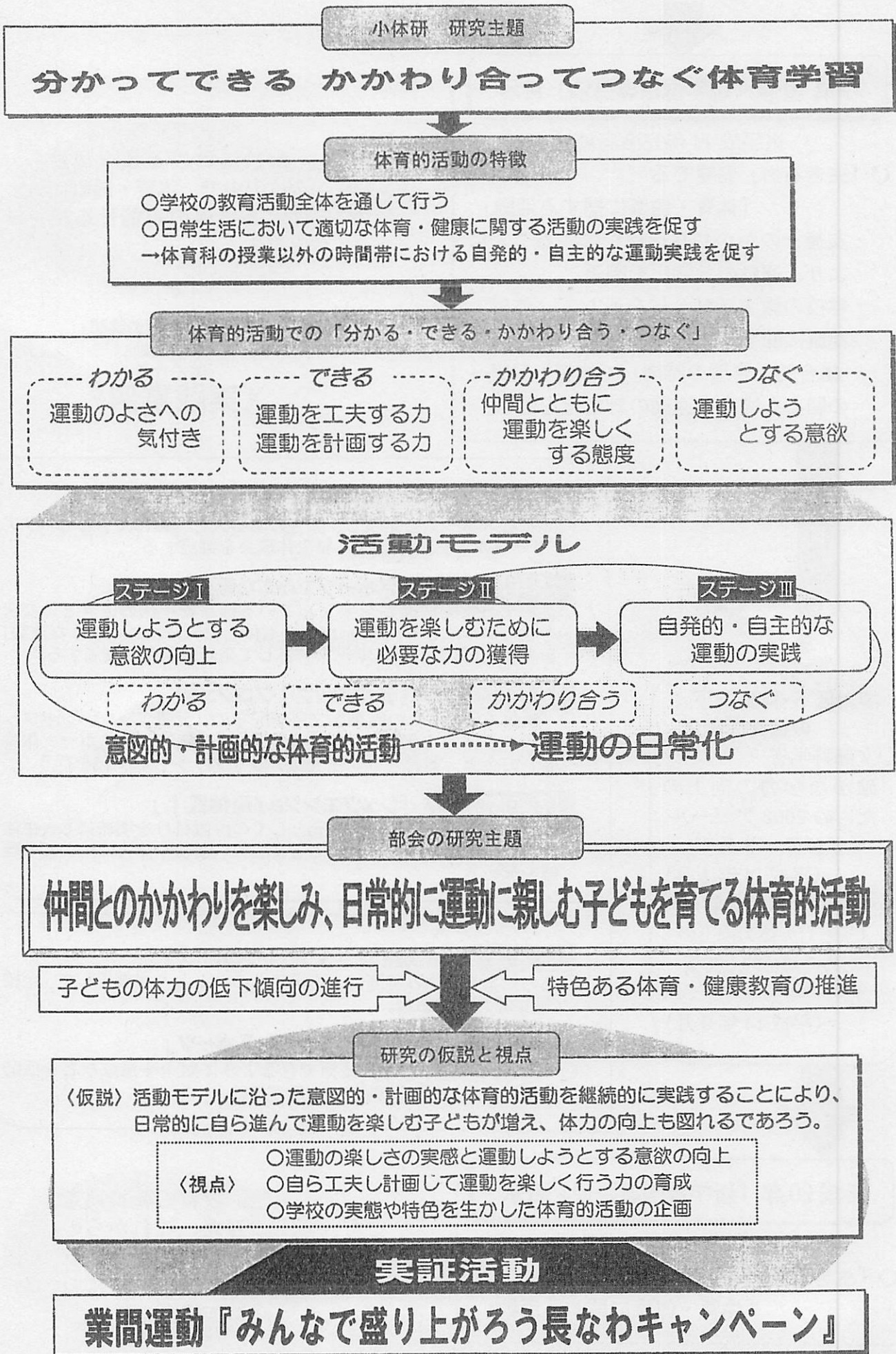
※平成23年完全実施

○「生きる力」を育てる

「体育・健康に関する活動」

教育の転換期を迎え、これからの体育的活動の在り方や活動内容について模索する。

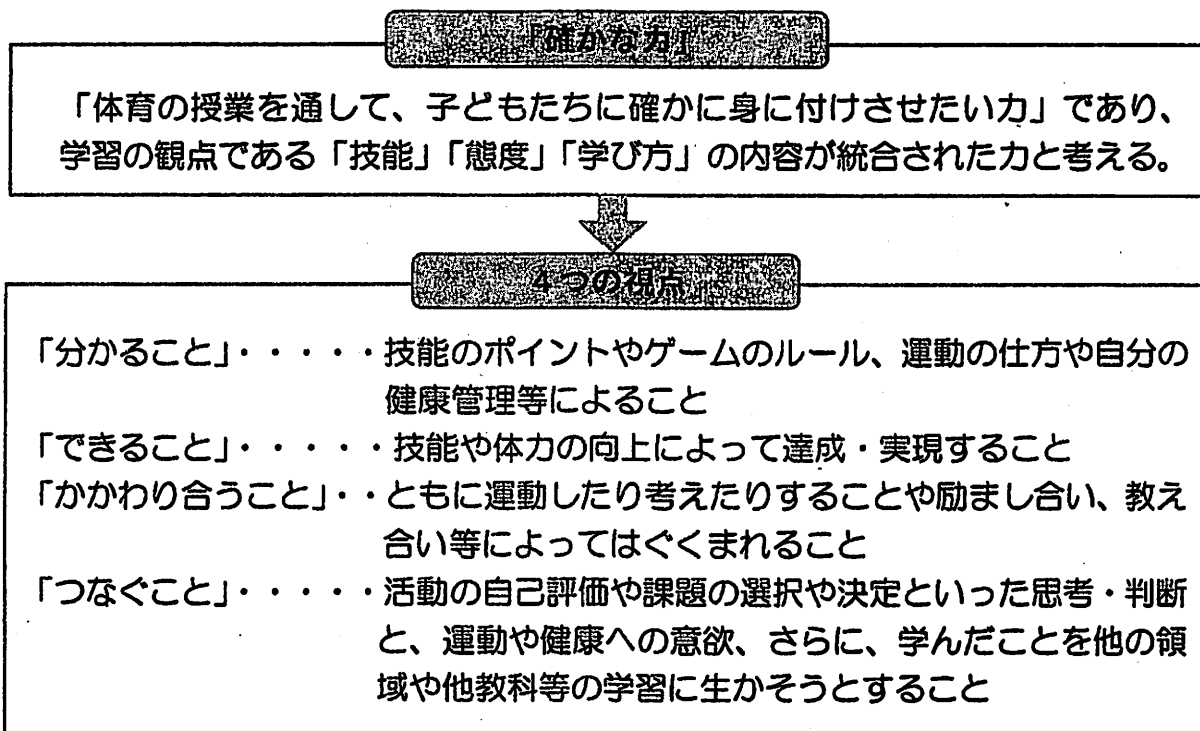
I 研究の構想



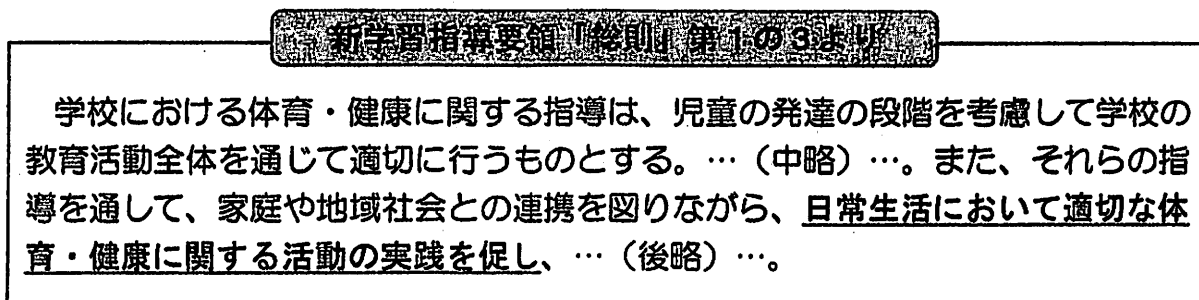
1 「分かること・できること・かかわり合うこと・つなぐこと」について

(1) 東京都小学校体育研究会における考え方

平成17年度から3年間にわたり、「確かな力をはぐくむ体育学習」を研究主題として研究に取り組み、体育科の学習内容を次の4つの視点「分かること・できること・かかわり合うこと・つなぐこと」にまとめることができた。



(3) 体育的活動ではぐくむ「確かな力」



- 「日常生活において」とは…体育的活動の特殊性、他領域にはない活動の場
・ 学校における「業前・業間・放課後（休み時間を含む）」の時間帯
・ 学校外の「地域・家庭」で過ごす時間帯
- 本来、子どもが自由に活動する時間帯に、体育・健康に関する活動（運動）を進んで実践できる力を身に付ける＝部会がはぐくむべき「確かな力」

○確かな力をはぐくむためには

①「運動しよう」という気持ちにさせる

・運動する機会を与え、そこで運動する楽しさを十分に味わわせる

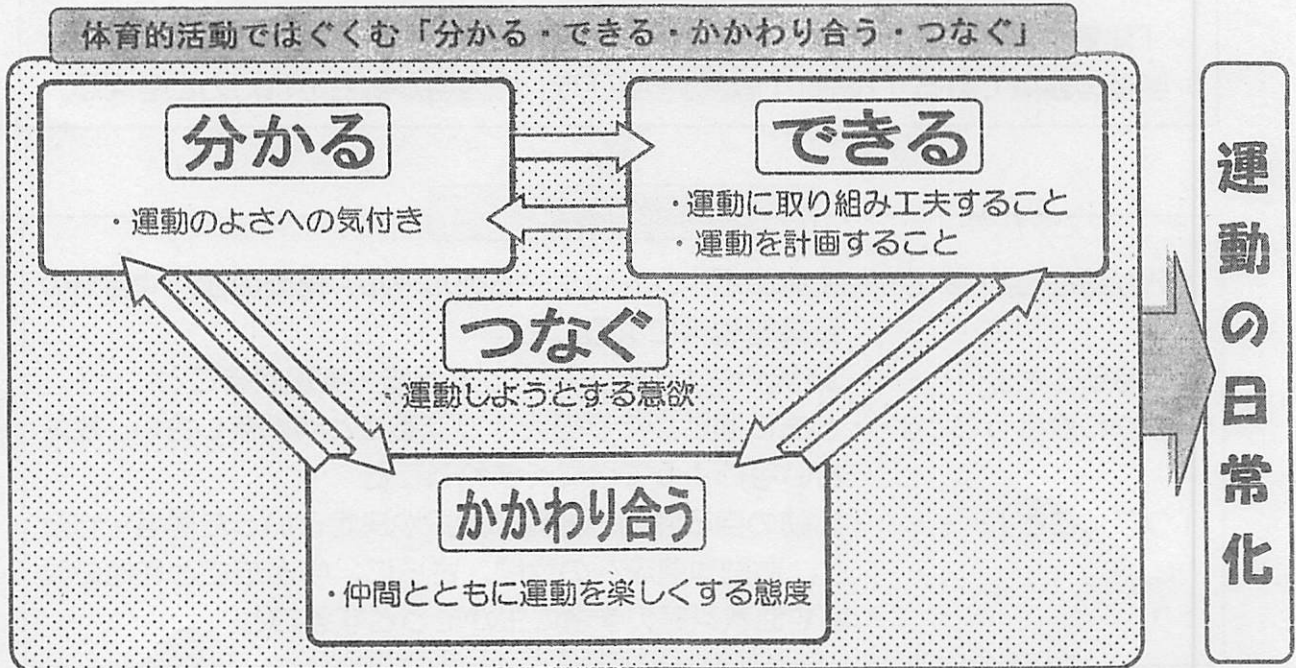
②「運動しよう」という気持ちを実行に移すために必要な力を身に付けさせる

(=教師や大人など第三者の支援がなくても運動を楽しめる力を身に付けさせる)

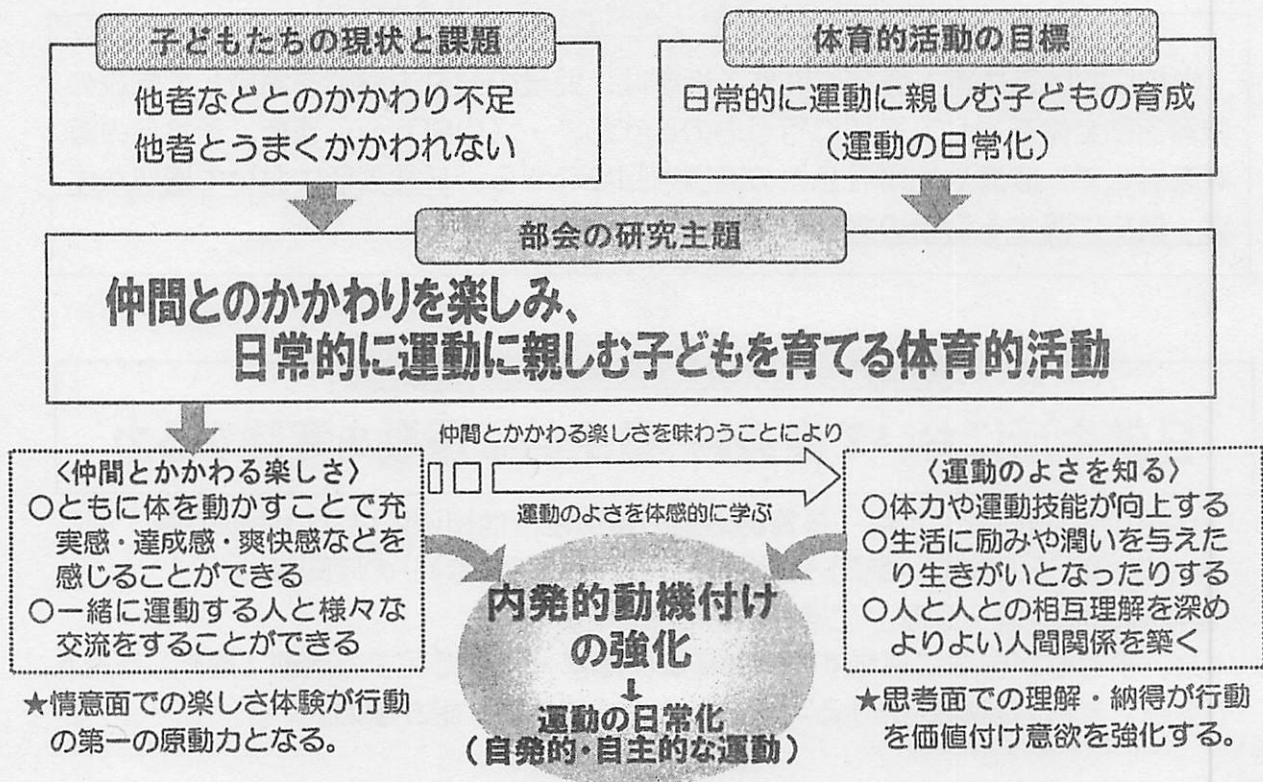
○運動のやり方を知っている、または考え出すことができる

○運動が楽しくなるよう、仲間と活動したり、工夫したりすることができる

○運動が続けられるように計画を立てたり仲間を組織したりすることができる



2 部会の研究主題について



3 体育的活動における「授業モデル」の考え方

(1) 体育的活動の特性

体育的活動は、体育科の授業時間以外に行われる、体力の向上及び心身の健康の保持増進に関する活動であり、日常生活において適切な体育・健康に関する活動の実践を促すことを目標としている。そのため、体育科の学習における運動領域や保健領域とは異なる、次のような特性をもつと考えた。

○対象・内容・形態・時間・場所・期間などを、学校の実態や特色、活動のねらいに応じて多様に設定することができる活動である。

○子どもにとって、いろいろなやり方で自由に取り組めることが楽しい活動である。また、遊びに近い感覚で気軽に取り組める活動である。

(2) 活動モデル

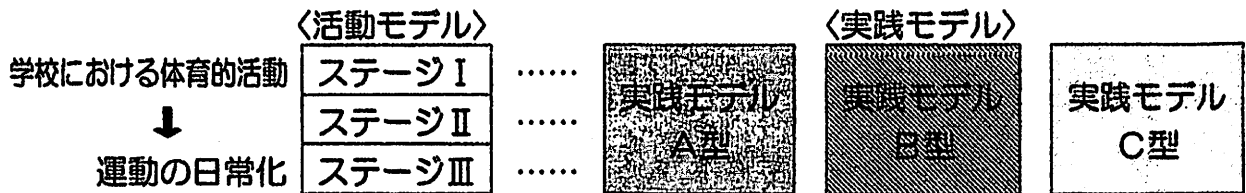
体育的活動は、一般的にいう「授業」の形態で行うことはほとんどないので、他の領域と同様の「授業モデル」は考えづらい。しかし、上記のような体育的活動の特性と、今までの本部会における研究実践の結果から、学校における体育的活動を運動の日常化へ発展させていくには、どのような活動を行う場合でも共通してふまえるべき段階があるのではないかと考え、それを体育的活動における「活動モデル」として示すこととした。

〈体育的活動から運動の日常化への活動過程〉

段階	ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ
活動の方法	○決められた活動の場で取り組む ・時間と場所を与える ・仲間とかがわる機会を与える	○活動の場を選んで工夫しながら取り組む ・選択の場を与える ・工夫の場を与える	○自ら目標を立て自ら考えて取り組む ・活動状況に応じた支援 ・活動の評価と価値付け
活動の重点	運動の楽しさの実感	運動を楽しむために必要な力の獲得	自発的・自主的な運動の実践
わかる	・運動の楽しさ ・友達と運動する楽しさ ・(運動の取り組み方)	・運動を工夫する楽しさ ・(運動の取り組み方)	・自分の課題 ・運動の工夫の仕方 ・(運動の取り組み方)
できる	・運動に取り組むこと	・自分のやりたい運動を選択して運動に取り組むこと	・運動を計画すること ・進んで運動に取り組むこと ・工夫して運動すること
かかわり合う	・決められたグループで仲よく運動する	・集まったメンバーで協力して運動する	・自分たちで仲間を組織するなどして仲よく協力して運動する
つなぐ	・運動しようとする	・活動を選択して運動しようとする	・自ら目標を立てて運動しようとする

(3) 実践モデル

体育的活動は、「特性」のところでも述べたように、対象・内容・形態・時間・場所・期間などを、学校の実態や特色、活動のねらいに応じて多様に設定することができる。その多様な設定を分類・整理したものを体育的活動の「実践モデル」と考え、「活動モデル」とは別に示すこととした。(後述「5 研究の内容」参照)



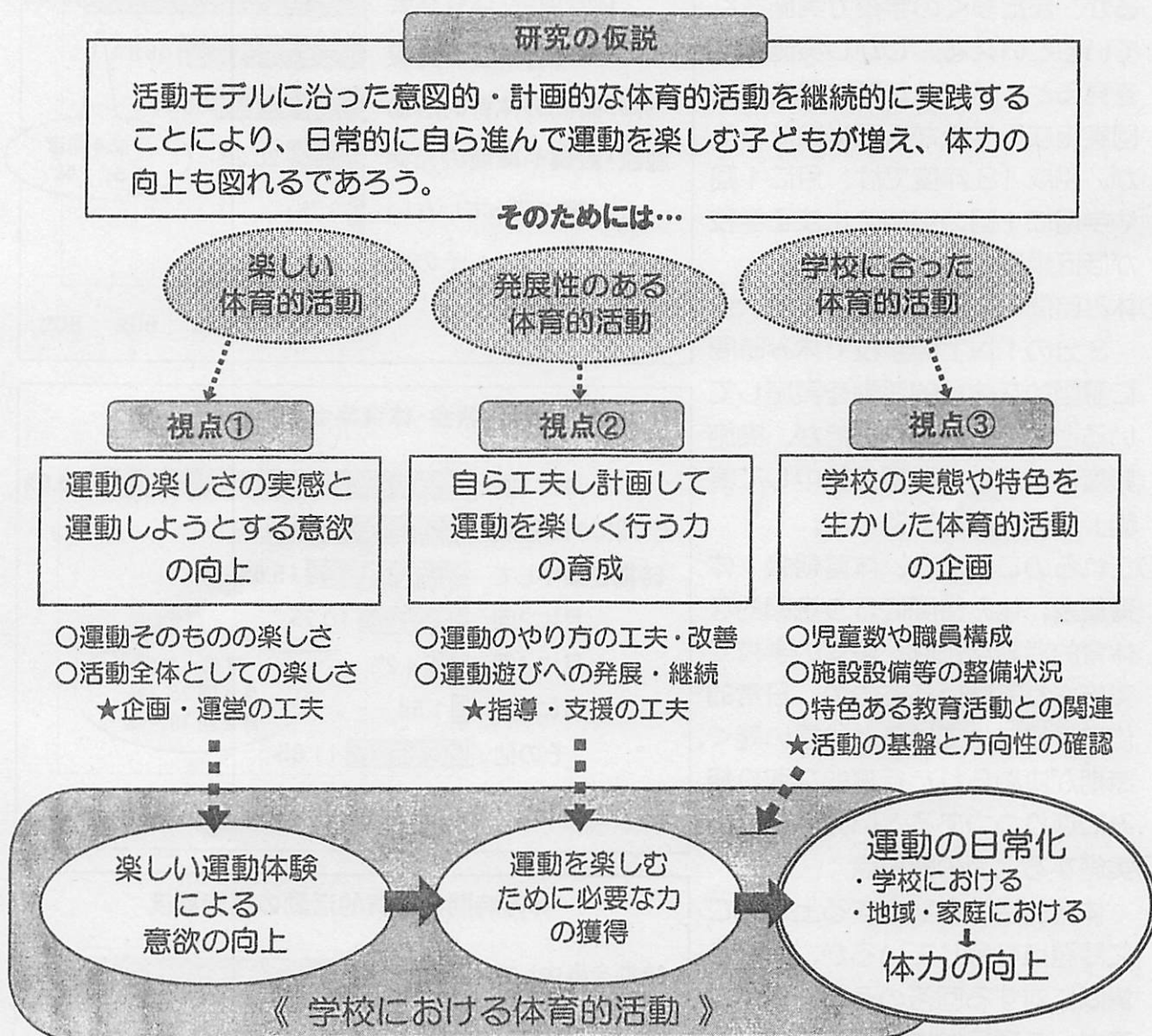
(4) 活動の流れと活動づくりのポイント

活動モデルの流れ・めあて・環境設定や活動づくりのポイントにも、どのような活動を行う場合でも共通する内容があるのではないかと考え、以下のように示すこととした。

	活動の流れ	めあて	活動環境の設定
ステージⅠ	<ul style="list-style-type: none"> ○オリエンテーション ・いつ、だれと、どこで、何を、どのように行うのか知る。 ○全校で共通した活動 ・決められた場所や時間で決められた活動を行い、運動に親しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の場や行い方を知り、仲間と楽しく運動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動単位や場の設定 ・停滞なく効率的に取り組める設定を行う。 ○資料の提示 ・カードや掲示物など必要に応じて作成する。
ステージⅡ	<ul style="list-style-type: none"> ○個の思いや願いに応じた活動 ・自分が取り組みたい運動を選んで活動する。 ・楽しく運動するため工夫をしながら取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動の場や行い方を選んだり工夫したり、自分なりの課題に挑戦したりして、運動の楽しみ方を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○活動単位や場の設定 ・種目や人数に応じて設定を変更・調整する。 ○課題の設定 ・達成・競争などの具体的な課題を提示して意欲を高める。
ステージⅢ	<ul style="list-style-type: none"> ○成果をいかして取り組む活動 ・自分たちで活動や大会を企画して運動に取り組む。 ・学校や地域の行事で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら目標を立て、自ら活動方法を考えて、自発的・自主的に運動に取り組む。 ○個々に活動を振り返り、さらに運動に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○発展的な場の設定 ・取り組みを評価し価値付ける場を設定する。 ・新たな取り組みや継続的な取り組みを支えたり、促したりする場を設定する。
活動づくりのポイント	<p>◆<u>わかりやすくスムーズな活動を第一に</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前準備の不手際で活動が停滞すると運動の楽しさが損なわれます。種目の選定や活動単位、場の設定など、無理なく実施でき子どもにもわかりやすい企画をこころがけましょう。 <p>◆<u>情報の積極的な提示・活用を</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・記録・写真・感想など子どもの様子がわかるものを、掲示物や印刷物、朝会などの場を活用して全校的に紹介しながら進めると、活動が活性化します。 <p>◆<u>教師による指導・支援を大切に</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師と一緒に活動してよき行動モデルとなることで、子どもはその模倣を通して自発的・自主的に運動を実践する力を体得していくことができると考えます。 ・特にステージⅢでは、子どもたちの発達の段階や実態に応じた支援が大切です。 <p>大会を計画する際には、</p> <ul style="list-style-type: none"> 低学年・・・子どもたちの意見を生かしながら教師がともに計画を立てる。 中学年・・・自分たちで活動種目や方法を考えて計画を立てられるように支援する。 高学年・・・活動の目標を明確にして計画を立てられるように支援する。 <p>ようにすると、より自発的・自主的な運動の実践につながると考えます。</p>		

4 研究の仮説と視点

体育的活動ではぐくみたい「分かること・できること・かかわり合うこと・つなぐこと」と部会の研究主題より、研究の仮説と視点を以下のように考えた。



5 研究の内容

(1) 調査研究 *平成 18 年度実施

「体力向上に向けての取り組みに関するアンケート」を都内約 20 地区の学校へ配布し、その回答から体力向上に向けての各学校における取り組みの実態と指導者の意識を知り、これからの学校に求められる体育的活動の在り方を考えた。

なお、集計にあたっては、本部会が平成 4 年度に実施した「体育朝会・体育集会等に関するアンケート」調査結果との比較検討も可能な限り行い、時代の流れによる体育的活動への取り組み状況の変化も考察してみることにした。

〈調査結果の概要〉実施時期：平成18年7月、回答数：22区市町村352校

○体育朝会・体育集会の実施状況

実施している学校は、平成4年度に比べ10%以上減少してはいるが、まだ多くの学校で実施されているといえる。しかし実施頻度を見ると、平成4年度は月に複数回実施する学校がほぼ半数だったが、平成18年度では、月に1回や学期に1回の実施に止まる学校がほぼ半数となっている。

○休み時間の体育的活動の実施状況

3分の1以上の学校で休み時間に意図的な体育的活動を実施しているとの回答が得られたが、実施頻度としては「時期を集中して実施」がほとんどであった。

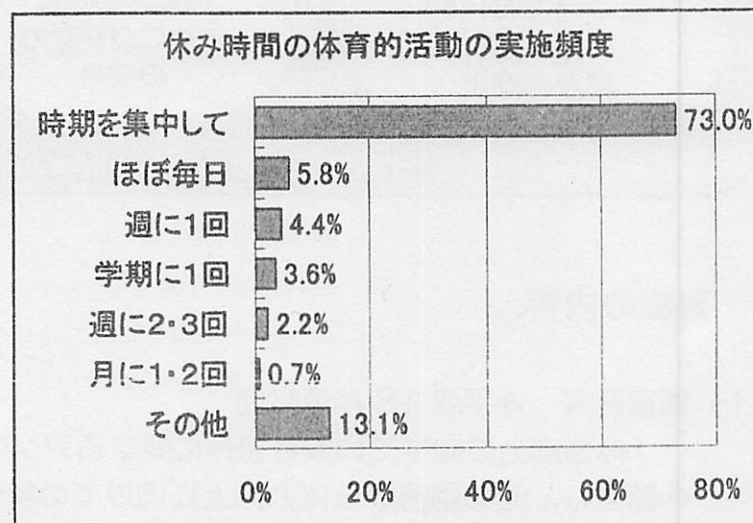
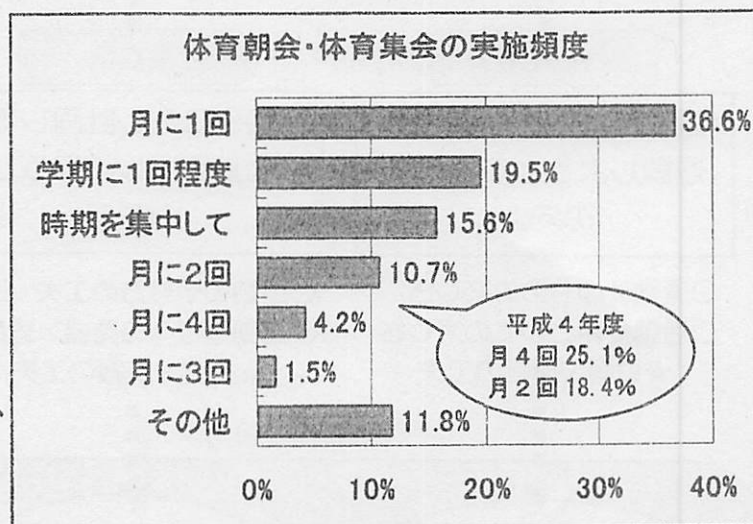
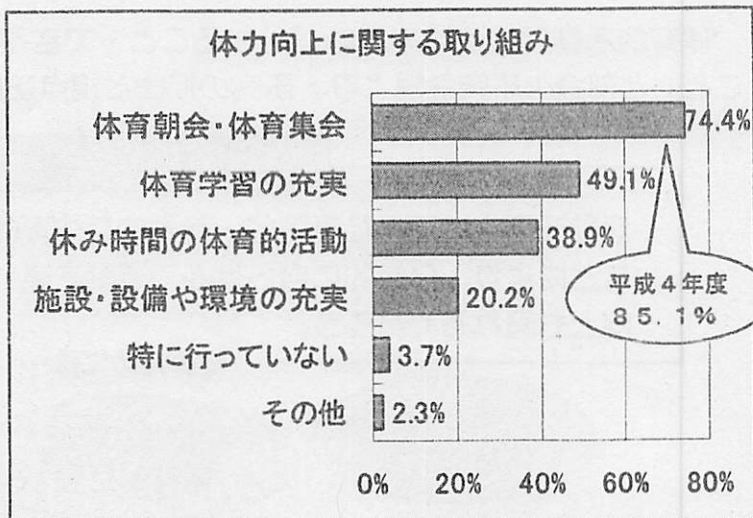
○これらのことから、体育朝会・体育集会、休み時間に行う意図的な体育的活動などは、多くの学校で実施されてはいるものの、日常的に取り組まれているとは言い難く、時期が決められた行事的な取り組みになりつつあるといえる。

○実施する上での問題点

体育的活動を実施する上でどこに問題点を感じているか、という質問に対する回答のうち、割合の高かった項目は次の通りである。

- ①時間設定……………48.9%
(平成4年度32.1%)
- ②全校の協力体制……34.1%
(平成4年度5.2%)
- ③児童の安全管理……32.4%
(平成4年度項目なし)
- ④活動場所……………30.9%
(平成4年度32.1%)

特に「①時間設定」と「②全校の協力体制」は平成4年度と比べて大きく増加しており、これらは体育的活動の実施頻度とも密接に関連しているものと考えられる。体育的活動を活性化していくには、これらの問題点をクリアできる実践の開発が必要である。



(2) 事例研究 *平成19年度実施

事例研究を行うことで、各学校における体育的活動実施の実態をつかむとともに、体育的活動の多様な実践モデルを考えていくこととした。(詳細は「Ⅱ体育的活動の実践モデル」参照)

〈内容および方法〉

- 都内の体育科教育・健康教育の研究指定校・研究奨励校や昨年度の本部会のアンケート調査に回答してくれた学校について、研究紀要、電話での聞き取り、ホームページの閲覧などにより体育的活動に関する実践を収集し、それらを整理・分類・分析することにより、よりよい体育的活動の実践モデルを開発する。
- 体育科教育・健康教育の研究指定校・研究奨励校については、東京都教職員研修センター授業研究ヘルプデスクより平成16～18年度の一覧表を入手した。

(3) 実践研究

体育的活動部会では、これまで平成12～16年度の6年間にわたって「総合的な学習の時間における体育・健康に関する指導」について研究してきた。

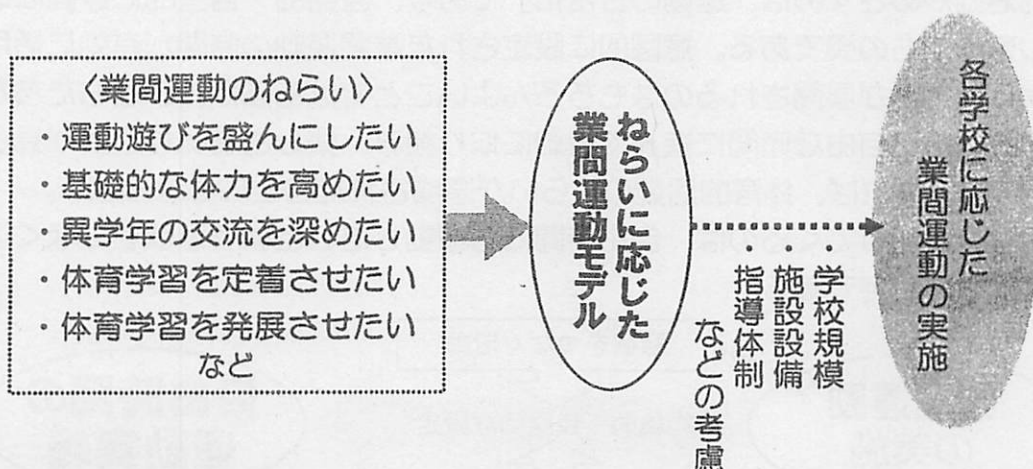
しかし、総合的な学習の時間については、近年では学校ごとに内容の精選が進み特色ある実践が定着して年間指導計画も確立しており、本部会で新たな提案をする余地がなくなってきた。

また、学校週五日制の実施に伴い、体育朝会・体育集会は月1回・学期1回程度の回数の学校が多くなっているが、運動に親しむきっかけづくりとして位置づけられることが多くなっている。子どもの体力低下が大きな問題となっている現在、運動の日常化と体力の向上を図る新たな体育的活動の提案が求められるようになってきた。

そこで本部会では、定期的・継続的に運動に取り組み、運動の日常化や体力の向上を図る体育的活動の場として「業間運動」や「体育朝会」等に着目し、平成18年度から研究に取り組んできた。

①学校の実態や特色を生かした「楽しい業間運動」の工夫

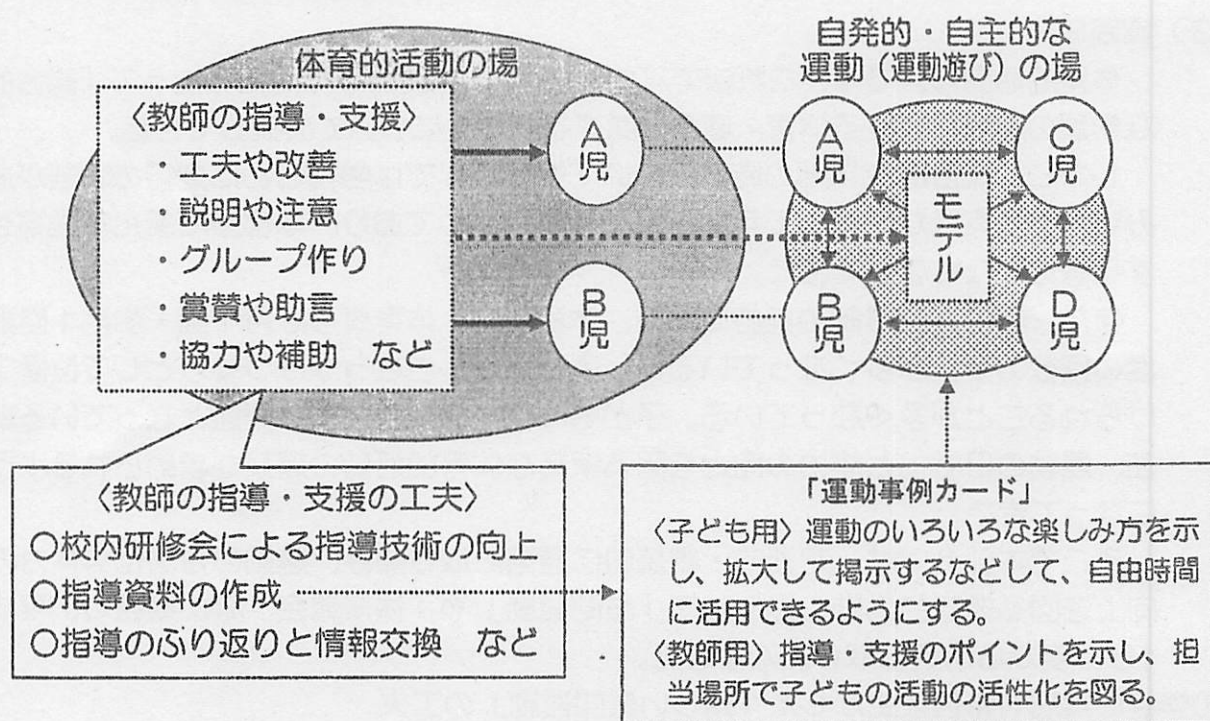
学校で意図する業間運動の「ねらい」に応じた様々な業間運動の実践モデルを開発・提案する。



②自ら工夫し計画して運動を楽しく行う力を育成するための指導・支援の工夫

子ども同士が自発的・自主的に運動を楽しむためには、時には子ども自身が指導者・支援者となり、状況に応じて活動の舵取りをしなければならない。その際に必要となるのが、本部会でとらえる「分かること・できること・かかわり合うこと・つなぐこと」だと考える。かつては子ども同士の集団遊びの中で自然と身に付いていったが、子どもたちから日常的な集団遊びがほとんど失われつつある現在では、意図的に場を設定し学ばせることも必要ではないだろうか。体育的活動の果たす役割にはそのような部分もあるのかもしれない。

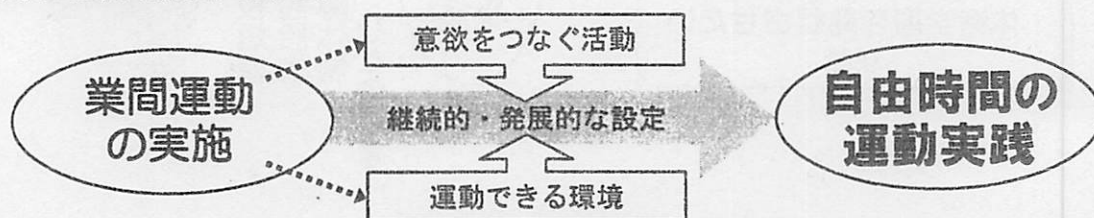
通常の“授業”の形態をとらない体育的活動では、学ばせたい内容を教師から直接的に伝授する場合もあるが、どちらかという、教師の姿が「モデル」となり、その模倣を通して間接的に体得されていく部分が多いものとする。そのため教師の適切なかわり方が重要となる。



③運動の日常化につなげる活動の展開と環境設定

体育的活動がめざすのは「運動の日常化」であり、自発的・自主的に運動に取り組み楽しむ子どもの姿である。意図的に設定された業間運動の時間が有効に活用され、充実した活動が展開されるのはもちろんよいことではあるが、子どもたちが誰にも束縛されない自由な時間に進んで運動に取り組み、楽しさを味わう姿が見られるようにならないければ、体育的活動のねらいが達成されたことにはならない。

そこで重要となってくるのは、自由時間にも運動したいという意欲をつなぐ活動の展開と環境の設定である。



II 体育的活動の実践モデル

1 事例研究について

(1) 概要

各地区における体育・健康教育に関する研究指定校・奨励校（平成16～18年度）36校、及び、平成18年度本部会実施の「体力向上に関するアンケート」において、「月1・2回以上体育的活動を実施している」と回答した18校について、その取り組みについて知り、よりよい体育的活動の実施に向けての方策を考えることをねらいとして、下記のような実態調査を実施した。

- ・実施時期：平成19年7月25日～
- ・依頼数：33区市町村54校
- ・調査方法：研究紀要の送付依頼・HPの参照・電話等での聞き取り
- ・調査内容：業前・業間運動の取り組みの実施状況およびその内容と方法

(2) 分析方法

各校の取り組みについて、本部会で考えた体育的活動の実施における留意点ごとに整理分類してまとめた。

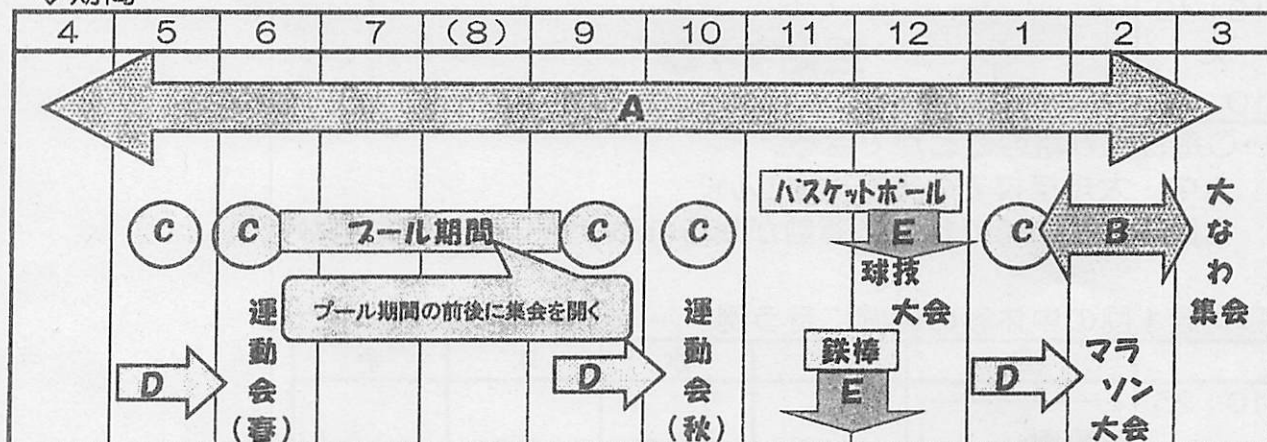
(3) 実態調査結果

①体育的活動の目的・ねらい



②期間・時間設定

◇期間



A：年間通して定期的（毎日～週1回程度）に取り組む
（「〇〇タイム」など学校毎に名前を決めているところが多い）

B：季節的に1ヶ月程度、継続して取り組む
（マラソン旬間・なわとび月間など冬の取り組みが多い）

C：月に1～3回（体育朝会など）

D：行事に併せて（運動会やマラソン大会など）

E：体育の学習から発展させキャンペーンで取り組む

◇時間設定（○はメリット、△はデメリット）

A：始業前の時間に（低中高に分けて）週1回15分で行うパターン

	月	火	水	木	金
8:25 ～ 8:40	全校朝会	運動タイム 低学年の日 (中・高学年は 基礎学習の時間)	運動タイム 中学年の日 (低・高学年は 基礎学習の時間)	運動タイム 高学年の日 (低・中学年は 基礎学習の時間)	全校集会 体育朝会 など

→○校庭で全校一斉に取り組めない大規模校でも比較的取り組める。

○年間通して取り組める。

△15分モジュールを授業カウントする場合、基礎学習の時間が週3回から2回になるので、その分をどうカウントするのか考える必要がある。

B：始業前の時間に（低・高に分けて）週2回15分で行う例

	月	火	水	木	金
8:25 ～ 8:40	全校朝会	運動タイム 低学年の日 (高学年は基礎 学習の時間)	運動タイム 高学年の日 (低学年は基礎 学習の時間)	運動タイム 低学年の日 (高学年は基礎 学習の時間)	運動タイム 高学年の日 (低学年は基礎 学習の時間)

→○週2回取り組める。

△大規模校では校庭の広さによっては難しい。

△集会の実施日がないので、あくまでも1～2週間の期間限定でのみ実施可。

C：中休みの終わり5分で行う例

	月	火	水	木	金
10:25 ～	中休み	中休み	中休み	中休み	中休み
10:40 ～ 10:45	運動タイム				

→○毎日取り組むことができる。

△中・大規模校での実施は難しい。

△時間が短いので行える運動に限られる（持久走や全力走など）。

D：週1回の中休みの時間に行う例

	月	火	水	木	金
10:25 ～ 10:45	運動 タイム	中休み	中休み	中休み	中休み

→○定期的に長い時間取り組むことができる。

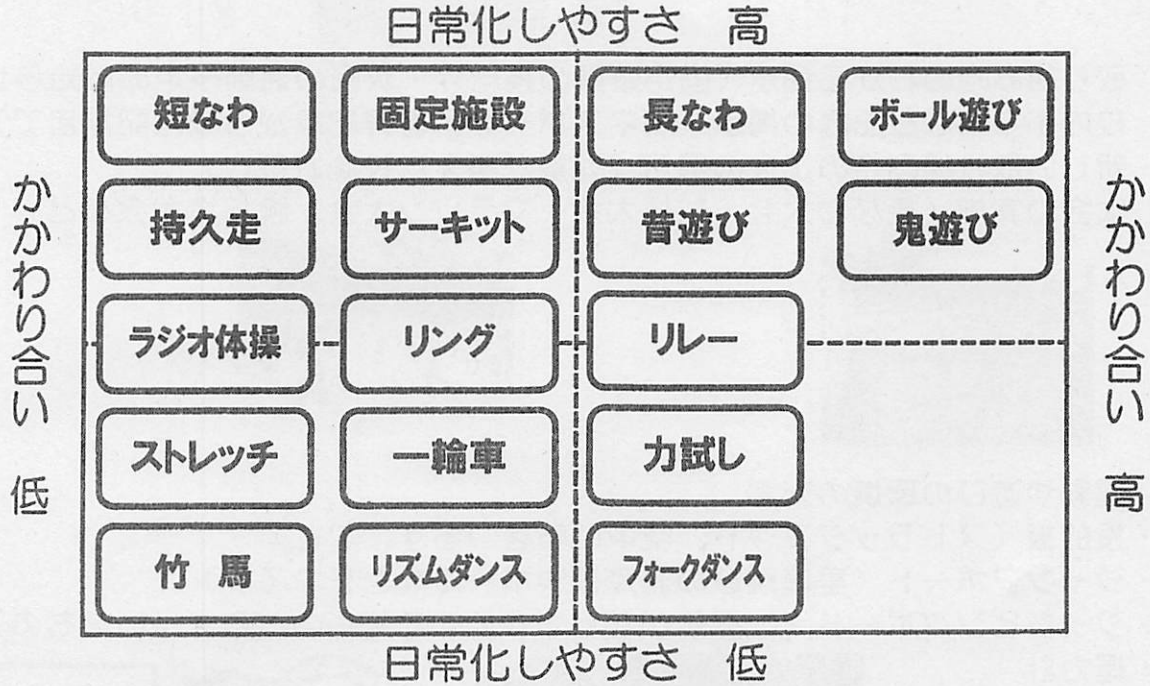
○クラスみんなで取り組めたり、先生もかわりをもったりしやすい。

△活動が多岐になると児童の把握が大変。

△教師間で行い方を事前に十分に共通理解しておく必要がある

③運動内容

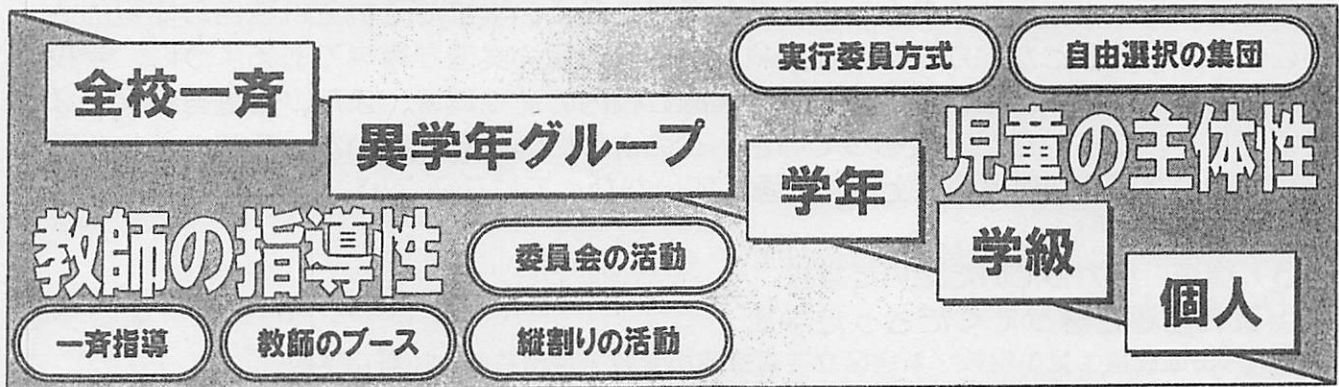
体育的活動で取り組まれることが多いのは、以下のような運動であった。活動計画立案の参考になるよう、「日常化のしやすさ」と「かかわり合いの程度」を座標軸にとり、おおまかに分類してみた。



上の表は学校での実施を前提に考えたが、あくまでも目安であり、学校の施設設備の状況によって異なる。また、活動方法や運動の提示の仕方次第でも変わってくるものと思われる。

④活動形態

体育的活動の活動形態は、同時に活動する集団の規模によっても様々である。教師の指導性や児童の主体性の比率から、以下のように整理してみた。



活動のねらいだけでなく、活動の段階や児童の経験の有無によって形態は選んでいきたい。また、活動の中に、委員会やたてわり活動、代表児童による実行委員会などの形式による企画なども取り入れ、高学年児童を積極的に活動にかかわらせていくことも考えられる。

⑤活動の環境の設定

ア 活動資料の配付

(元気アップカレンダー・
元気アップハンドブックなど)



イ 取り組み方のわかる掲示(固定遊具の技紹介・次回の活動予定のお知らせ)

ウ 校内ギネスなど記録の掲示(ギネスボード、世界記録から校内記録まで)

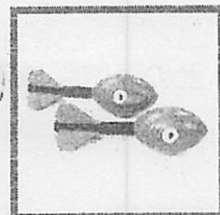
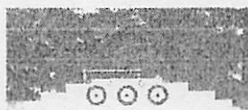
エ 新しい取り組み方の工夫の掲示(児童が考えた技や遊び方)

オ 大会の実施(長なわ大会・球技大会・マラソン大会、腕相撲大会など)



カ 運動や遊びの環境の充実

- ・投的板(ストラックアウト、空中に輪をつるす、など)
 - ・ジャンプボード(垂直跳びの測定板やボールなどをつるす)
 - ・ジャンピングボード(二重跳びをしやすくするためのバネが付いたもの)
 - ・握力計
 - ・万歩計
 - ・長なわ
 - ・Gボールルーム
 - ・クラス配布(ドッジビー、ロケットボールなど)
- など



(4) 考察

活動をモデル化していくことを考えたときに、多くの学校でそれぞれ独自の体育的活動を行っていることがわかった。体育科における児童の実態が様々であるように、学校の実態もまた様々であり、自校の児童の実態と校内の運動環境、また、指導者の実態などに応じて、ねらいをどこにもっていき、どのように活動させたいか。また、それが実施可能なのかどうか見極めた上で、計画していかななくてはならない。

(5) 調査に協力していただいた学校

①研究紀要を送ってくださった学校

千代田区立富士見小学校・新宿区立淀橋第四小学校・世田谷区立山野小学校

目黒区立油面小学校・目黒区立緑が丘小学校・世田谷区立赤堤小学校・練馬区立高松小学校

中央区立城東小学校・渋谷区立幡代小学校・渋谷区立千駄ヶ谷小学校・立川市立第十小学校

中野区立多田小学校・杉並区立東田小学校・東村山市立八坂小学校・国分寺市立第三小学校

稲城市立稲城第七小学校・江戸川区立下鎌田西小学校

②ホームページを閲覧させていただいた学校

杉並区立東田小学校・北区立桐ヶ丘郷小学校・北区立滝野川第六小学校・北区立王子小学校

江東区立毛利小学校・江東区立東陽小学校・江東区立第一大島小学校・品川区立三木小学校

江東区立第二大島小学校・江戸川区立下鎌田西小学校

※順不同 10月10日現在

2 体育的活動の実践モデル

各学校の体育的活動は、昨年度の調査から、多くの学校で実施されてはいるものの、日常的に取り組まれているとは言い難く、実施回数は低下傾向にあることが分かった。また、今年度の事例研究から、各学校の取り組みは、児童数や校庭の広さなどの実態に応じて、様々な運動内容や活動形態がとられていることが分かった。

そこで部会では、体育的活動の実施形態に関わる諸条件を整理し、各学校の実態やねらいに応じて体育的活動の計画立案や見直しを図れるよう、いくつかの実践モデルを考えた。

< 計画立案時の主な検討事項 >

自校における
体育的活動の
ねらいは何か？

実施する時期や
時間設定は
どうするか？

行う運動種目や
場の設定は
どうするか？

学校行事や体育の
年間指導計画との
関連はどうか？

「体育学習の導入や発展を図りたい！」

○ねらい

体育で学習する領域や単元に関連する運動に取り組むことにより、体育学習の導入や発展を図る。

○種目例

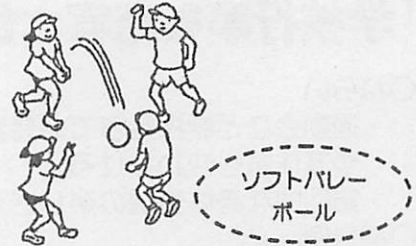
- ・ボールを使った運動
- ・走・跳の運動
- ・固定施設や器械・器具を使った運動
- ・用具を操作する運動

○活動形態

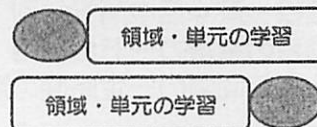
〈単位〉単学年や低中高学年別

〈方法〉ステップカードの使用

ゲームや競争の場の設定



実施時期…体育学習の前後に短期間で



「体育学習の定着や向上を図りたい！」

○ねらい

- ・体育で学習している運動に取り組む場を設定し、よりいっそうの技能の定着や向上を図る。
- ・自主的に運動に取り組む楽しむ態度を育てる。

○種目例

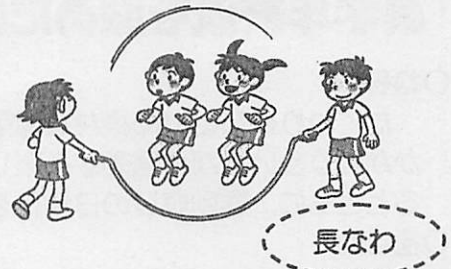
- ・持久走
- ・長なわ、短なわ

○活動形態

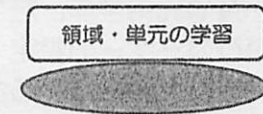
〈単位〉全校一斉や低中高学年別、個人

〈方法〉ステップカードの使用

月間や旬間の自由な取り組み
集会や大会の設定



実施時期…体育学習と平行する一定期間前後や中間に集会等の設定も



「基礎的な体力を高めたい！」

○ねらい

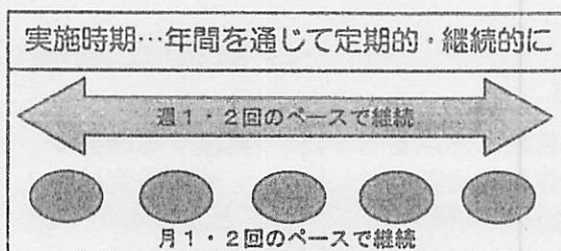
- ・体の基本的な動きや感覚を身に付け、各種の運動の基礎を培う。
- ・自己の体力を高めるため進んで運動しようとする態度を育てる。

○種目例

- ・体の柔らかさや巧みな動きを高める運動
- ・力強い動きや動きを持続する力を高める運動
- ・各種の運動を組み合わせたサーキットトレーニング

○活動形態

- 〈単位〉 全校一斉や低中高学年別、個人
- 〈方法〉 記録カードの使用
個に応じた自由な取り組み



「学校行事を充実させたい！」

○ねらい

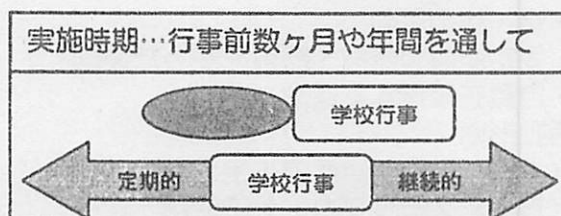
- ・運動会など学校行事での発表を通して一体感や達成感を味わわせる。
- ・集団的な身体表現の楽しさを味わわせる。

○種目例

- ・南中ソーラン、リズムダンス
- ・自校体操、自校音頭

○活動形態

- 〈単位〉 全校一斉や低中高学年別
- 〈方法〉 動きの習得カードの使用
休み時間中の一定時間の活用



「異学年交流を深めたい！」

○ねらい

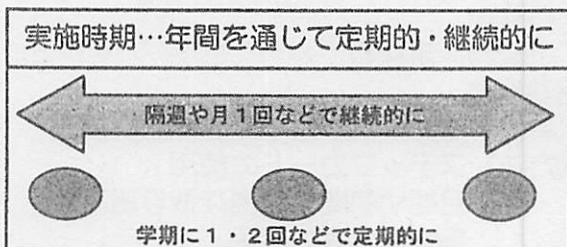
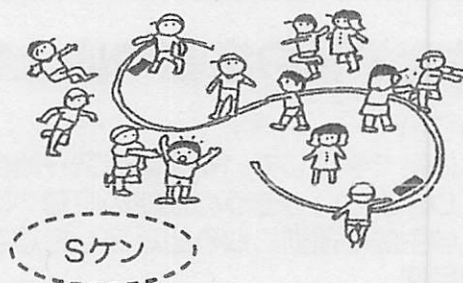
- たてわり班などでの様々な運動遊びを通して、かかわり合いながら運動する楽しさを味わせるとともに、運動遊びの日常化を図る。

○種目例

- ・鬼遊び、陣取り遊び、宝とり遊び
- ・ボール遊び、長なわ

○活動形態

- 〈単位〉 全校一斉や兄弟学年、たてわり班
- 〈方法〉 運動遊びコーナーの設定・巡回
たてわりリーダーによる企画



Ⅲ 実践事例

1 平成20年度の実践

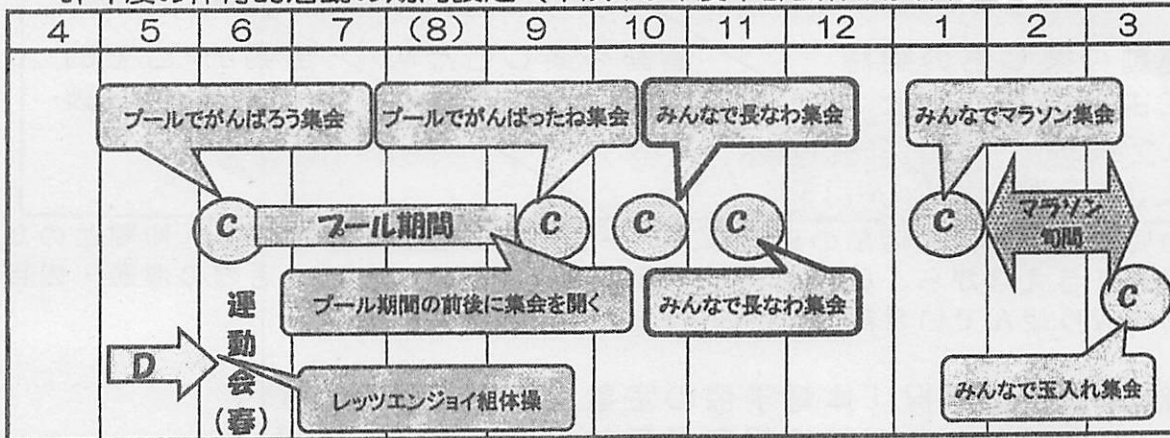
(1) 実証授業校の概要

昨年度本部会で作成した体育的活動の実践モデルを実証するに当たり、開進第三小学校の実態について以下にまとめた。

開進第三小学校の実態

- 児童数：760名 学級数：22学級
- 校庭：50mが横にようやく取れる。トラック1周120m程度。
- 北向きのため、冬は土が凍る。昼溶けてグチャグチャになる。
- ◎体育的活動の実際：年4回程度、体育委員会の企画による体育集會が開かれる。
(昨年度は長なわ集會や玉入れ集會を行った。)
水泳の取り組みの始めと終わりに体育集會が開かれる。
冬に3週間、休み時間に校庭を周回する「マラソン旬間」が行われている。
体育朝会は実施していない。
- 今年度から「体力向上を図る体育指導の在り方と評価の工夫」をテーマに研究に取り組んでいる。
- 研究の一環で、体育的活動部会が発足し、子ども達の運動の日常化に向けた取り組みが始まったところである。

昨年度の体育的活動の期間設定 (平成19年度本部会作成資料より参照)



開進第三小学校の課題

(今年度の校内研究の研究構想図から引用)

【児童の課題】

- 明るく素直な子供
- 授業規律を守る子供
- ・身のこなしが悪い子供
- (簡単にケガをする)
- ・かかわり下手な子供
- ・生活習慣の乱れた子供
- (塾で寝るのが遅い)
- ・勝敗にのみ
- こだわる子供

【教師の課題】

- 研究熱心な教師
- 協働的な教師
- 運動経験豊かな教師
- ・経験年数の若年化
- ・体育の研究の
- 未経験の教師

【特色・環境の実態】

- 音楽・特別活動が盛ん
- ・高学年は休み時間、
- 外で遊ば(べ)ない
- 地域・スポーツが盛ん
- ・運動経験に偏り
- ・児童数に対して校庭が狭い
- ・体育が4年まで
- 2～4クラス共同

(2) 実証授業に向けて

① 児童の実態と教師の願い

本校では昨年度、「みんなで長なわ集会」を体育委員が企画運営し、全校一斉に取り組んだ。低学年は、「波」を跳んだ通算の回数。中学年以上は8の字跳びを跳んだ通算の回数を競い合った。2回集会を行い、1回目と2回目で記録の伸びを目標に取り組んだ。子供は嬉々として取り組み、休み時間などでも自主的に取り組む姿も見られ、回数も飛躍的に向上した。

当日は、校庭いっぱい22クラスが広がり、ぶつかり合いながら運動した。大きなケガはなかったものの、全校一斉に取り組む長なわの取り組みに限界を感じた。一方で、校内の高学年担任からも「簡単な運動課題でクラスが1つになって運動に取り組む機会がなかなか取れなかったから、今回の企画はよかった。」という声も上がった。

そこで、運動のよさを知り、進んで運動に取り組んでいくように、時間と場を設定し、よりよく運動に取り組むための手立てを考えた。

② 活動モデル内の本校の位置づけ

階	ステージⅠ	ステージⅡ	ステージⅢ
活動の方法	○決められた活動の場で取り組む ・時間と場所を与える ・仲間とかかわる機会を与える	○活動の場を選んで工夫しながら取り組む ・選択の場を与える ・工夫の場を与える	○自ら目標を立て自ら考えて取り組む ・活動状況に応じた支援 ・活動の評価と価値付け
活動の重点	運動の楽しさの実感による意欲の向上 本校の児童および体育的行動の現況	運動を楽しむために必要な力の獲得	自発的・自主的な運動の実践

本校の児童及び体育的活動の現況はステージⅠである。したがって、仲間とのかかわる機会を与えながら、時間と場所を与えていきたい。また、活動の形態・内容も工夫して取り組んでいきたい

③ 実践モデルの選択「体育学習の定着や向上型モデル」

活動内容「みんなで取り組む長なわキャンペーン！！」

ねらい：体育で学習している運動に取り組む場を設定し、より一層の技能の定着や向上を図る

対象：2学年ごと全学年

内容：長なわのいろいろな跳び方に挑戦する

形態：クラス男女ごとのグループで、担任もいっしょに取り組むもしくは兄弟学年での取り組みもありか

期間：10月から11月にかけての4週間

時間：昼休みのある日の中休み（月・火・木）のうち1回

場所：体育館および校庭の半分（残り半分は、他学年の自由遊び）

その他：キャンペーン期間中は配当学年が優先して使用する。

○ステージⅠ【決められた活動の場で取り組む】

決められた場所や時間で決められた活動を行い、運動に親しむ。

→週1回の中休みに、校庭・体育館・屋上を使って、クラスの男女毎にローテーションしながら指定された運動に取り組む。

～キャンペーン期間中の休み時間の校庭の使い方～

	月	火	水	木	金
10:25 ～ 10:40	キャン ペーン タイム 1・6年	キャン ペーン タイム 2・5年	自由 遊び (ホビータイム)	キャン ペーン タイム 3・4年	自由 遊び (ホビータイム)
13:05～ 13:20	自由遊び (ホビータイム)	自由遊び (ホビータイム)	クラス清掃	自由遊び (ホビータイム)	

※キャンペーンタイムの学年が優先して校庭を使用。他学年は長なわなら校庭の周りで取り組んでよい。どの学年も自由遊びは毎日確保。

～キャンペーン期間中（週4回）の場所毎の運動の内容～

	低学年	中学年	高学年
校庭A	<1週目> 波	<1週目> 3人で大まわし	<1週目> 5人で大まわし
校庭B	<2週目> ハイキング	<2週目> 連続かけぬけ	<2週目> 8の字跳び
体育館	<3週目> ゆうびんやさん	<3週目> 8の字跳び	<3週目> 0の字跳び
	<4週目> 大波小波	<4週目> じゃんけんぬけ	<4週目> 8の字跳び（5人で連続け）

※教師に対しては、実技研修を行う。また、低学年には高学年の有志を募りなわ回しをしてもらう。

○ステージⅡ【活動の場を選んで工夫しながら取り組む】

キャンペーンの後半では、教師が声かけをし、「キャンペーンタイム」以外の自由遊びの時間に、仲間と誘い合って、自分達が行いたい運動を選んで活動させる。

また、「オリンピックタイム」を設定し、達成・競争などの具体的な課題を提示して意欲を高める。

競争型		達成型
8の字コース	大まわしコース	巧みに長なわコース
2分間タイムトライアル ・男女別の5人で ・男女ミックス5人 ・低中高ミックス5人	2分間タイムトライアル ・男女別の5人で ・男女ミックス5人 ・低中高ミックス5人	長なわを跳びながら、 ・短なわを跳ぶ（いろいろな跳び方） ・ボールをつく ・ボールを外の人と受け渡す ・ボールを中の人と受け渡す など
オリンピックタイム		

※オリンピックタイムの結果は、投票を行い表彰し、キャンペーン後に1位は集会で披露する。

○ステージⅢ【自ら目標を立て自ら考えて取り組む】

キャンペーン終了後も、活動の方法を選びながら、自発的・自主的に長なわの取組を継続していく。

また、各学級や学年で、実行委員を募って、長なわ大会などの大会を企画させることもできる。

～キャンペーン期間中の計画～

日にち	曜	体育的活動・長なわキャンペーン関係
10月 1日	水	都民の日
10月 2日	木	
10月 3日	金	体育集会「長なわキャンペーンが始まるよ集会」
10月 6日	月	初インテ-ヨソ 1・6年の日①
10月 7日	火	2・5年の日①
10月 8日	水	
10月 9日	木	3・4年の日①
10月10日	金	
10月13日	月	体育の日
10月14日	火	2・5年の日②
10月15日	水	
10月16日	木	3・4年の日②
10月17日	金	
10月20日	月	1・6年の日②
10月21日	火	2・5年の日③
10月22日	水	
10月23日	木	3・4年の日③
10月24日	金	長なわ集会パート1
10月27日	月	1・6年の日③ 全学年の日④（研究発表）
10月28日	火	
10月29日	水	
10月30日	木	
10月31日	金	
11月 4日	火	
11月 5日	水	
11月 6日	木	
11月 7日	金	
11月10日	月	
11月21日	金	長なわ集会パート2

『キャンペーンタイム』

ステージⅠ

ステージⅡ
『オリンピックタイム』

ステージⅢ
自発的・自主的
な運動の日常化

(3) 本時の活動

①「キャンペーンタイム」

- 活動のねらい ・「できる」運動をみんなでやることの楽しさを知り、日常化につなげる。(わかる・つなげる)
 ・比較的易しい技に取り組むことで、長なわの基礎・基本的な技能の定着を図る。(できる)
 ・クラス全員で取り組むことで、友達の頑張りやよさを見つける。(かかわる)

低学年(1・2)年「キャンペーンタイム」活動案

指導者 第1学年 1組・山田 寛子 2組・山本 真弓 3組・横川 陽子 4組・松本三枝子
 第2学年 1組・安齋 真澄 2組・榎本 邦康 3組・酒川 敬史

活動の流れ		児童の動き	指導上の留意点
はじめ 1分	活動の準備	・校庭の割り当て場所に集合し、広がって長なわを始める準備をする。	・朝の時間に確認しておくこと ①跳ぶ場所・縄の向き ②跳び方 ③回し手 ④技能ポイント ⑤めあて
なか 1分	長なわ 「大波小波」	・二手に分かれ、「大波小波」に取り組む。 —技能ポイント— ★縄に当たらない端から ★縄が向こうに行ったら入る ★真ん中でその場で跳ぶ	・失敗した児童は励ましたり、技能ポイントを伝えたりし、上手に跳べた児童は褒めたりする他、回し手を巡るトラブルを円滑に解決する等、行動モデルとしてかかわる。 ・安全に留意し、必要があれば助言する。
おわり 2分	振り返り	・始めに集合した場所で、今日のキャンペーンタイム取組について簡単に振り返る。 ・友達のがんばりやよさを賞賛し、認め合う。 ・今後の活動や日常生活につなげることを考える。	・めあてがどう取り組めたのかについて、観点を絞って振り返る。 ・今日の活動の課題を次につなげるよう助言する。

中学年(3・4)年「キャンペーンタイム」活動案

指導者 第3学年 1組・川原千賀子 2組・加藤 尚宏 3組・高橋 麻子 4組・廣田 慶子
 第4学年 1組・井上 貴司 2組・小林由紀子 3組・邊見 教江 4組・竹重由美子

活動の流れ		児童の動き	指導上の留意点
はじめ 1分	活動の準備	・校庭の割り当て場所に集合し、広がって長なわを始める準備をする。	・朝の時間に確認しておくこと ①跳ぶ場所・縄の向き ②跳び方 ③回し手 ④技能ポイント ⑤めあて
なか 1分	長なわ 「じゃんけんぬけ」	・二手に分かれ、「じゃんけんぬけ」に取り組む。 —技能ポイント— ★なわを追いかけて入る ★回し手を見て跳ぶ ★縄の中央でなるべく跳ぶ ★リズムを合わせる (ジャンとポンで着地) ★着地と同時に抜ける	・失敗した児童は励ましたり、技能ポイントを伝えたりし、上手に跳べた児童は褒めたりする等望ましい行動モデルとしてかかわる。 ・めあてに基づいた児童のよさを見取る。 ・安全に留意し、必要があれば助言する。
おわり 2分	振り返り	・始めに集合した場所で、今日のキャンペーンタイムの取組について簡単に振り返る。 ・友達のがんばりやよさを賞賛し、認め合う。 ・今後の活動や日常生活につなげることを考える。	・めあてがどう取り組めたのかについて、観点を絞って振り返る。 ・今日の活動の課題を次につなげるよう助言する。

高学年（5・6年）「キャンペーンタイム」活動案

指導者 第5学年 1組・佐藤悦子 2組・高野美春 3組・増嶋広曜 4組・平間詩乃
 第6学年 1組・早川 賢 2組・関和 薫 3組・横田 崇

	活動の流れ	児童の動き	指導上の留意点
はじめ 1分	集合・準備	・校庭の割り当て場所に集合し、回し手を中心に広がる。	・朝の時間に確認しておくこと ①跳ぶ場所・縄の向き ②跳び方 ③回し手 ④下級生のお手伝い ⑤技能ポイント ⑥めあて ほか
なか 12分	長なわ 「5人連続跳び」	・二手に分かれ、「5人連続跳び」に取り組む。 —技能ポイント— ★縄に当たらない端から ★縄を追いかける ★5回跳びながら前にずれる	・失敗した児童は励ましたり、技能ポイントを伝えたりし、上手に跳べた児童は褒めたりする等、望ましい行動モデルとしてかかわる。 ・めあてに基づいた児童のよさを見取る。 ・安全に留意して必要な時は助言する。
おわり 2分	振り返り	・始めに集合した場所で、今日のキャンペーンタイムの取組について振り返る。 ・友達のがんばりやよさを賞賛し、認め合う。 ・今後の活動や日常生活につながることを考える。	・めあてがどう取り組めたのかについて、観点を絞って振り返る。 ・今日の活動のよさや課題を次につなげるよう助言する。

—26—

体育館棟

校舎

昇降口

「キャンペーンタイム」 【校庭B】	「キャンペーンタイム」 【校庭A】
13:45～14:00 1年「大波小波」	13:45～14:00 6年「5人連続跳び」
14:00～14:15 2年「大波小波」	14:00～14:15 5年「5人連続跳び」
14:15～14:30 3年「じゃんけん抜け」	14:15～14:30 4年「じゃんけん抜け」

東門

正門

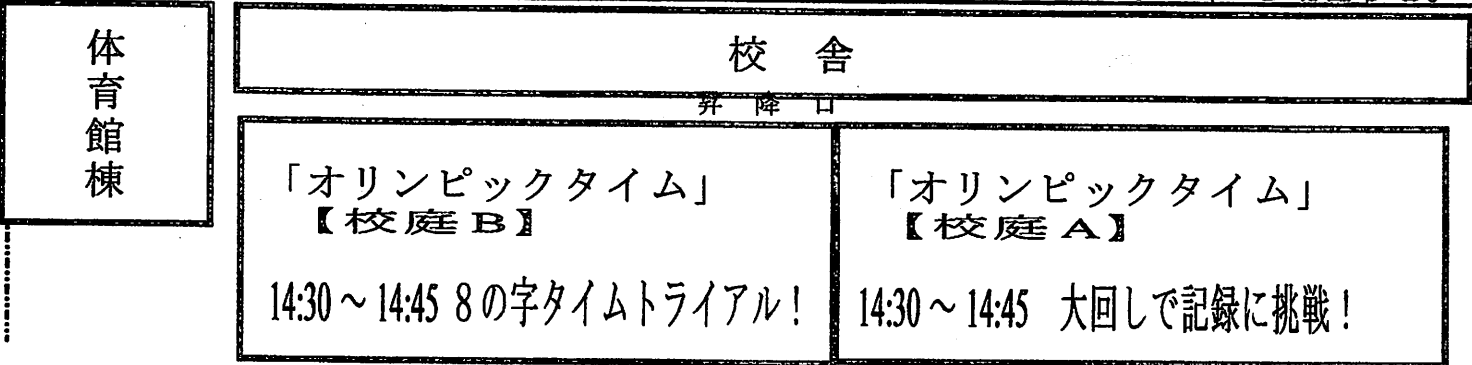
②「オリンピックタイム」

活動のねらい ・「できる」運動をさらに工夫して行ったり、記録などに挑戦したりする楽しさを知る。(わかる・できる)
 ・取り組む技を選択する中で、主体的かつ協力的な運動態度を育み、運動の日常化につなげる。(できる・なく)
 ・選択した者同士で取り組む中で、友達のよさや頑張りを見つける。(かかわる・つなぐ)

指導者 第5学年 1組・佐藤悦子 2組・高野美春 3組・増嶋広曜 4組・平間詩乃
 第6学年 1組・早川 賢 2組・関和 薫 3組・横田 崇

	活動の流れ	児童の動き	指導上の留意点
はじめ 1分	集合・準備	<ul style="list-style-type: none"> 校庭の割り当て場所に集合し、回し手を中心に広がる。 準備運動(屈伸・伸脚・足首など)を自主的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の時間に確認しておくこと ①跳ぶ場所・縄の向き ②跳ぶ方法 ③回し手 ④技能ポイント ⑤めあてほか
なか 12分	長なわに取り組む 「8の字タイムトライアル」 「5人で大回し」	<ul style="list-style-type: none"> 「8の字タイムトライアル」技能ポイント <ul style="list-style-type: none"> ★縄に当たらない端から ★縄を追いかける ★連続で次々入る。 「5人以上で大回し」技能ポイント <ul style="list-style-type: none"> ★最初の1回で息を合わせる ★回し手と縄をよくみる ★なるべく真ん中で跳ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> 失敗した児童は励ましたり、技能ポイントを伝えたりし、上手に跳べた児童は褒めたりする等望ましい行動モデルとしてかかわる。 めあてに基づいた児童のよさを見取る。 安全に留意して必要な時は助言する。
おわり 2分	振り返り	<ul style="list-style-type: none"> 指導者の周りで、今日の「オリンピックタイム」の取組について振り返る。 友達のがんばりやよさを賞賛し、認め合う。 今後の活動や日常生活につながることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> めあてがどう取り組めたのかについて、観点を絞って振り返る。 今日の活動のよさや課題を次につなげるよう助言する。

—27—



2 資料

(1) 小平市立小平第八小学校の実践

WHAT'S マンデースポーツ

① 小平第八小学校の研究の概要

研究主題である「心身ともにたくましい児童の育成～かかわり合いを大切にすることを通して～」を達成するために、本校では「体育学習の充実」「運動の日常化、体力の向上」「生活習慣の確立」の3つの視点から研究を進めている。そして「体育学習の充実」に向けて「レッツ！体育分科会」を、「運動の日常化、体力の向上」に向けて「エンジョイスポーツ分科会」を、「生活習慣の確立」に向けて「ウェルネスライフ分科会」を組織し研究している。



★エンジョイスポーツ分科会では「運動の日常化、体力の向上」を目指し、「マンデースポーツ」「スポーツフェスタ」「環境整備（掲示物の作成）」「八の子はつらつマラソン」の4つの取り組みを行っている。

② マンデースポーツの概要

ア ねらい

- ・運動に積極的に取り組む態度を育てる。
- ・児童の運動の日常化を図る。
- ・児童の体力の向上を図る。

イ 研究仮説

魅力ある体育的活動に取り組ませることにより、運動の楽しさを味わわせれば、進んで運動に取り組む児童を育成でき、運動の日常化を図ることができる。また運動の日常化を図ることにより体力の向上を図ることができると考えた。

